

コウノトリ湿地ネットニュースレター

パタパタ

vol.

41

豊岡市城崎町今津1362
0796-20-8560
toshima8560@iris.eonet.ne.jp
<http://wac-s.net>



雲南市西小学校人工巣塔から巣立った J0235♀ アカハライモリを啜えています。

(写真提供 雲南市 大坂博宜氏 2019年6月15日 大雨)

＝目次＝

- P1 __ 豊岡盆地の魚の復活へ
- P3 __ 2019年 野外コウノトリの繁殖
- P5 __ かけはし
- P7 __ 戸島湿地だより・編集後記

豊岡盆地の魚の復活へ

コウノリ湿地ネット 代表 佐竹 節夫



この3月末で、コウノリの郷公園の山岸哲園長が退任された。そのときの記者会見で今後の課題を述べられていたが、その一つが「淡水魚など餌となる生きものが足りない」というものだった。これまでも多くの方が同様の課題を提起され、そのため行政、農家、市民で河川の自然再生、農業の有機農法への転換や田んぼでの生息環境(ビオトープ)づくり、水田魚道の設置等を積極的に展開されてきた。でも、「足りない」と。実は、山岸氏だけでなく、コウノリの郷公園も豊岡市も、そして私も「足りない」と思っている。「物足りない」が適切かもしれない。

では、これまでの取り組みの何が足りなかったのか？ 本稿では、「河川」について考えてみたい。

私が暮らす下宮地区では、もう30年近く前に河川改修が実施されたが、この周辺では珍しい川底を石で敷き詰めたものだった。両サイドの護岸はコンクリートだが、コンクリート三面張りを変更した画期的な工事だった。完了後には早々に多くのカワニナが見られたし、魚も姿を見せていた。しかし、その後はほとんど姿を見せなくなった。たまにいくつかの魚を見たかと思っても、すぐ姿を消してしまう。

一度大雨が降ると、直線のコンクリート護岸のために生きものはすべて流されてしまうのだ。底が自然型になっても、魚にとっては避難する所がなく、とても繁殖どころじゃない。

円山川水系の自然再生は、平成15年から始まった。当初、高らかに宣言されたのは、エコロジカルネットワークの形成だった。山裾～水路～田んぼ～河川～海の有機的なつながりを重視するというものだ。しかし現実には所掌官庁の違いもあり難しい。結果、国は直轄の円山川本川で、県は県管理河川で、それぞれ河道内の改良を実施されている。高水敷の湿地・ワンド化、段差解消等だ。もちろん、全国的に見ても先進事業であり、多くの成果が出ているとの報告にも接している。けれども、基本的には下宮川同様に限界があるのではなからうか。

ならば、「足りない」の克服に向けて、当初に掲げたエコロジカルネットワークの構築へ、一步を踏み出すべきと思う。

そこで本稿では、一つの参考例として、私たちが指定管理者となっているハチゴロウの戸島湿地での魚の状況を紹介したい。湿地は、日本海(円山川河口)から3.4km地点にある。

この湿地での特徴は、まさに魚の多さにある。春には毎週、他の時期は必要の都度、湿地出口に定置網を掛けて調査しているが、スジエビなどは毎回、網一杯になるほどだ。

汽水域にあるため淡水、汽水、海水に住む魚類等がセットで見られる。主なものを列記してみると、コイ、フナ、ナマズ、ウナギ、タモロコ、オイカワ、モツゴ、スズキ、ボラ、ウグイ、シマイサキ、ハゼ類ではマハゼ、ウロハゼ、ビリンゴ、チチブ、アシシロハズ、アベハゼ等だ。イトヨは近年ではこの湿地が唯一の確認場所となった。甲殻類ではテナガエビ、スジエビ、モクズガニ。

面白いのは春にサケの稚魚が多数入ってくる。円山川中流で産まれた稚魚は真つすぐ海に下るのかと思っていたが、その一部はいろんな所をうろろしながらゆっくり海に行くのだろう。反対に、6月には海からボラ、スズキの稚魚が多数入ってくる。湿地は、彼らにもゆりかごの場を提供しているのだ。ダイナ

ミックな光景を見せてくれるのが4月中旬のコイの産卵である。今年は特に多くの個体が泳ぎ回り、産卵していた。その後、成魚は円山川に帰り、稚魚も少し大きくなった後に円山川に出ていく。戸島湿地は、まさに円山川水系での魚の再生産の場となっている。



コイの産卵写真

湿地の豊かな生物相を成り立たせている大きな要因が、楽々浦湾(入り江)と湿地を結ぶ延長約400mの水路である。250mの既設水路に湿地造成で150mを新設して繋いだ。

航空写真 全景



湿地はたかが3.8haの面積だ。単独ではいくら頑張っても生態ピラミッドができるわけがない。だから、外部と繋げることで生物を豊かにしようというわけだ。結果、山裾～小川～農業用水路～湿地～新設水路～入り江～円山川本川～海が繋がることとなり、様々な種が多数出入りするようになった。(もちろん、歓迎しない外来種も入ってくるけど)

〈①～⑥の写真〉



写真・左上～右～左下へ ①～

この戸島湿地を一つの例にして、河川～湿地を水路で繋ぐことを様々な形でつくるのが出来ないだろうか。小川にワンドを設け、山からの水を引き込む、田んぼの排水口を掘り下げて水路と繋げる。いろんな小さな方法で魚が流されなく、再生産できる場を設けていく。面白いと思う。その前に、ぜひ戸島湿地の水路を見にお越しください。



2019年野外コウノトリの繁殖状況(速報)

パタパタ編集部



今年のコウノトリの繁殖は一気に西日本各地に拡大した。鳥取、京都、福井の府県で新ペアが成立したが失敗もあった。現在(6月15日)時点での各地の繁殖の状況をお知らせします。

但馬・丹後地域(豊岡市、隣接する朝来市、養父市、京丹後市)

●豊岡市

1、**戸島** J0294 メス J0391 オス、現在3羽のヒナが育っている。

2、**赤石** J0017 メス J0426 オス 4月に3羽のヒナが確認できたが、その後いなくなる。第2クラッチに入り、ヒナ2羽が生育中。

3、**野上** J0362 メス J0001 オス 2羽のヒナが育っている

4、**庄境** J0055 メス J0476 オス 3羽のヒナが巣立った。

5、**祥雲寺** J0012 メス J0021 オス 豊岡最初の孵化。

4羽の孵化が確認できたが、1羽間引かれ、3羽のヒナが巣立った。



20190419 庄境巣塔ヒナ2羽

6、**百合地** J0016 メス J0025 オス ヒナ1羽が巣立った。

7、**伊豆** J0296 メス J0381 オス 抱卵していたとの情報もあるが、今年の繁殖は期待できない模様。

8、**水上** J0110 メス J0097 オス 初の繁殖。昨年は抱卵に至らなかったが、今年は3羽のヒナが孵化し、2羽のヒナが成育中。

9、**森井** J0130 メス J0057 オス 新規ペア。個人が建てた巣塔で12年目に営巣。J0057(オス)は一昨年J0064(メス)とペアとなって三木巣塔で繁殖を経験、その後メスは死亡。新たにJ0130(メス)とペアとなるが、メスがネットに絡まり保護され、一時オスだけで子育てしていた。その際、ヒナ1羽が襲撃され収容中。2羽のヒナを育てている。

10、**袴狭** J0428 メス J0500 オス 周りにJ0363(以前、J0428とメスメスペアだった)が常に滞在している。ヒナ2羽が成育中。

11、**山本** J0399 メス 0011 オス 産卵したが失敗。その後第2クラッチに入り育雛している模様。

12、**河谷** J0100 メス J0083 オス 新ペアだが兄妹のため。産卵したが近親婚を避けるためJ0083が収容された。



20190416 森井巣塔

13、**奥野** J0099 メス J0111 オス 奥野地区の電波塔に営巣するが取り払われる。再度巣作りを試みていたがネットで覆われ断念したようだ。昨年河谷巣塔で営巣を試みたペア。

14、**広井** J0006 メス J0009 メス メス同士ペア2年目。2月末から抱卵している。

15. **気比電柱** J0043 メス J0094 オス 姉弟ペア。電柱に営巣しようとしているが取り払われる。近親婚を避けるためJ0094 が収容された。

16. **養父市八鹿町伊佐** 足環無しメス J0013 オス 繁殖2年目、繁殖ケージ横の巣塔を利用する。1羽のヒナが巣立った。



20190417 奥野電波塔上に巣作り

17. 京都府 京丹後市

※**網野町島津電柱** J0053 メス J0046 オス 昨年繁殖に成功、今年は4羽のヒナが巣立った。

※**久美浜町永留** J0050 メス 足環なし 抱卵中。昨年長い間抱卵していたが結局孵化しなかった。今年も抱卵が続いている。メス同士なのか？

※**久美浜町市場** J0106 メス J0122 オス 姉弟ペアのため飼育下の卵と交換された。2羽のヒナが育っている。

但馬・丹後地域外

●京都府

※**舞鶴市丸中鉄塔** J0022 メス J0028 メス メス同士のペア 高い電波塔のため産卵しているかどうかは不明。ここ数年営巣活動をしている。

●島根県

※**雲南市** J0051 メス J0118 オス 昨年からのペア。営巣場所を雲南市立西小学校の人工巣塔に換えて、今年も4羽のヒナが育っている。1羽の巣立ちが確認されている。

●鳥取県

※**鳥取市気高町鉄塔** J0123 メス J0125 オス 新規ペア。2羽のヒナが成育中。

※**西伯郡南部町電柱** J0144 メス J0135 オス 新規ペア。一度は強風に飛ばされたようだが、再度強固な巣を作り産卵していた。その後営巣活動は行わず、現在は雲南市で確認されている。

●徳島県

※**鳴門市電柱** J0480 メス J0044 オス 2017年から連続繁殖し、3羽のヒナが巣立つ。

●福井県

※**越前市白山ケージ上** J0119 メス J0481 オス 繁殖ケージ上で抱卵中 3/10 ごろから抱卵中。昨年も孵化していない。

※**越前市安養寺** J0132 メス J0138 オス 新規ペア。ヒナ3羽が生まれたが死亡した。

※**坂井市電柱** J0078 メス J0098 オス 昨年からのペア。越前市、坂井市と電柱に営巣を繰り返し、坂井市の電柱に落ち着き、4羽のヒナが確認されている。

このほか、綾部市での営巣活動があるとの情報もあるが、その後の詳細は不明。

◎ 地名のみ表示は、人工巣塔で営巣

◎ コウノトリ市民科学、戸島湿地管理棟への情報をもとに作成しました。

KAKEHASHI(かけはし)というグループ(その1)

湯ったり朝市 会長 木戸 栄一郎

KAKEHASHI は城崎町内川地区を元気にしたいと思う人のグループです。

そのきっかけは、豊岡市城崎町二見に在住の田中一郎さんが、平成 26 年 1 月、二見区の農会長として、区長と一緒に豊岡市役所城崎振興局へ地元要望に訪れた際に、「僕は、子供達の笑顔が見たいし子供の頃に経験したことを覚えているので、保育園の園児を自分のぶどう園に招待して、ぶどう狩りを楽しんでもらっている。内川にはまだまだ多くの人材や資源があるので、それを繋ぐことができないか」と。その言葉、思いがスタートです。

行政側は、来日、簸磯(ひのそ)、上山、二見の各地区、所謂、城崎町内川西部地区で田中さんが求められる様な方々に声を掛けました。この地域が道路で繋がっていることから「仮称:夢ロード会議」と名称して会合を毎月1回行いました。

会議は、少数の5人で始まり、途中、耕作放棄地が増え続けていることに憂い持たれていた戸島の女性の方も参加していただき、この会議が円山川を渡り内川東部地区を繋ぐグループになっていきました。

●KAKEHASHI(かけはし)の誕生

「繋ぐ」を意味する言葉で、◎明るい未来・将来・夢へ繋ぐグループ。地元の美味しい食、特産品を通して「①人と人を繋ぐ、思いを繋ぐ、次代に繋ぐ②内川を繋ぐ、内川と城崎温泉街を繋ぐ③特産品を異業種で繋ぐ」などの思いを繋ぐグループとして試行錯誤しながら活動をしています。

構成員の気持ちの変化は、平成 28 年 7 月の「市長とのふれあいトーク」と平成 28 年 10 月の「第1回内川地区収穫祭」だったと思います。

「市長とのふれあいトーク」では、構成員 6 人が出席し、内川地域で取り組もうとしている KAKEHASHI の活動や目的について意見交換しました。後に実現する収穫祭の開催、将来の城崎温泉街での朝市計画、KAKEHASHI の基地等の話題については、市長の助言もあって話が弾みました。例えば、活動基地として使用したいと思っていた場所の持ち主は構成員の女性ですが、自分も年齢が高くなり、店の再開は無理だという判断をされていました。そこで、市長から竹野町で地域再生の補助を受けて「なごみてい」が改築されたこと、「まだ頑張れる年齢ですよ」などの後押しをもらった。結果、この後で豊岡市の「女性のためのチャレンジ相談」を前向きに受けられ、現在、JR玄武洞駅近くの県道沿いで Clever add(クレハド)と言う喫茶店を経営され、常連客には手作りケーキなどを出されています。自分の特技を生かしながら、かつ、KAKEHASHI の活動基地としても使わせてもらっています。

●第1回 内川地区収穫祭

何回も会議を持ち、構成員だけの出品では小規模になってしまうことから、出品の願いを内川地区(各地区での説明会開催)全域に、温泉街へは城崎温泉観光協会、旅館組合、商工会などに開催の案内を行った。KAKEHASHI 構成員だけでは会場の整備も足りないの、周辺の方々にも協力をいただいた。構成員の中には、とてもできないと悲観的だった人も、沢山のお客にきていただきことで、それ以降は KAKEHASHI の活動に前向きになり、逆に今は「こうしたらどうだろう」との提案をいただいている。少人数でスタートしたからこそそのメリットだった。

●「朝市」

市長とのふれあいトークでも話していた「朝市」を、平成29年5月から城崎駅通り公園で、開店資金100万円の内、50万円を市より補助をいただき、その半分をKAKEHASHI構成員が出資し、毎週土曜・日曜の午前8時から11時まで開催しています。今では、野菜だけでなく、花・果物・飲料物・手芸品(巾着袋・手提げ鞆・ペンダント・竹細工等)、福祉施設・ゆのはな作業所が作られるキーホルダーなども出品いただけるようになりました。

観光客も含めると、年間1万人を越える方々にきていただいています。地元の方には、100円でコーヒーを販売していますので、その売上を見ると地域の交流数の増加が分かります。29年度は160人程度でしたが、30年度は760人と飛躍的に増えています。KAKEHASHIの当初の思いである「人と人を繋げ、地域の皆さんと繋がる。そして内川地区と温泉街を繋げる」が徐々に進んでいることを実感しています。



KAKEHASHIの事業は、補助金は全く受けず、自分たちが売り上げた資金から事業(31年度も収穫祭開催予定)を行いますので、多くの人材を集めて、知恵を出し合いながら、それぞれが意識を変えることによるのみ生き残れると思います。

新城崎大橋の架橋完成によって、これまで行けなかった大型バスが、内川東部地区(ハチゴロウの戸島湿地等)に行くことになります。これまで以上に多くの皆さんのKAKEHASHI(かけはし)が重要になるでしょう。



スイセンの花期は種類によって様々です。普通よく言われるスイセンは2月～4月に咲きます。

スイセンといえば白の花や黄色の花がよく見られますが、白と黄色以外にピンクや緑、オレンジなど色とりどりの花が咲きます。最近はさらに色々な特徴のある品種がでてきています。

黄色のスイセンの花言葉は「私のもとへ帰って」

う～ん、私の目には、あくまで明るく、屈託なく見えるのですが。



ハチゴロウの戸島湿地便り 戸島湿地管理棟

(1月～4月編)
森 薫



戸島ペアは

4月24日に初卵を、29日には3卵を確認しました。例年より2週間遅い産卵です。

今年も J0177♂、J0094♂が戸島湿地に飛来することが多く、J0391♂は戸島湿地周辺で過ごすことが多かったです。オスの飛来はピリピリするようで、すぐに帰巢していました。反対に、メスの J0102 は毎日飛来し、巣塔近くの電柱で埒入りしていることも多いのに J0391 はあまり威嚇しません。J0294♀にとっては落ち着かなかったでしょう。J0391 が肝要なこともあつてか、J0102 は行動も大胆で、J0294 が巣にいるのに巣に降りたことが3回あります。ところが、J0294 まで攻撃しないで曖昧な態度で追い払います。J0131♀が飛来し巣塔に降りようと何度も試したときには、J0102 が追い払っていました。どういうことでしょうか？

オスは他のオスの飛来は追い払うがメスには甘い、がこれまででしたが、それに加えてメスがメスを守るとは…。J0102 は 294 が好きなののでしょうか。ともかく、今まで飛来していたメスのコウノリとは少し違う行動をしています。



仕切り堤防に降りる J0102♀

J0131♀が巣に降りようとする

戸島ペア交尾行動

戸島ペアは、ペア以外のコウノリが飛来すると決まって交尾行動します。私はこれを秘かに「愛情再確認交尾」と呼んでいます。ペアの絆の再確認で絆を深めるのだから、飛来回数(個体)が多くなれば、交尾回数も多くなる、と思っていました。

しかし、他の個体が近くの電柱で休息しているときにも交尾行動することが多いので、そうであれば、縄張り行動の一つでクラッターリングと同じ意味合いを持つ威嚇行動ではないかと思うようになりました。労力を使って追い払うことなく、仲の良さを見せつけることで、追い払おうとする行為です。「愛情再確認交尾」はペアのための行動ですが、「見せつけ交尾」は他のコウノリを意識しての行動で、この行動は戸島ペアの特徴なののでしょうか。他のペアはどうでしょう？

3月17日には1羽が巣に伏せているところに、J0391 が大きな魚を飲み込んで帰巢しました。抱卵期間だったので J0294 が伏せていると思い込んでいたところ、J0391 が伏せているコウノリをつついて攻撃したのです。「なんてことを…」急いで録画映像、写真を見ると、伏せていたのは J0294 ではなく J0185 でした。それなら、なぜ J0185 は J0391 が帰巢したときに逃げなかったのか、J0391 はなぜすぐに追い払わなかったのか…。不思議でなりません。ペア以外のコウノリの飛来数が増

えたためか、今までと違うペアの行動に戸惑いながら観察している毎日です。

戸島巣塔生まれのオス3羽(J0097、J0098、J0125)がお父さんになりました。

戸島ペアの子供たちは合計22羽。(そのうち5羽が死亡、1羽が行方不明です)今までに繁殖個体になったのは、J0008♂(京丹後市)、J0013♂(養父市八鹿町)J0047♀(雲南市)の3羽です。J0008とJ0047は儂い運命で死亡しましたが、空の上から、私たちの活動を見守ってくれていると思います。J0097は豊岡市出石町、J0098は坂井市、J0125は鳥取市で営巣しヒナが育っています。令和元年、戸島ペアの孫は一気に9羽増え、13羽となりました。

一般社団法人 兵庫県損害保険代理業協会より寄付金をいただきました。

損害保険業界として、災害を少しでもなくしたいと、自然保護活動をしている団体へ寄付をされています。CSR活動にも力を注いでおられ豊岡市立ハチゴロウの戸島湿地には毎年、7月の第一土曜日と11月の第4土曜日にハチゴロウの戸島湿地に作業に来てくださっています。皆さん、コウノリをやさしい眼差しで見つめておられ、作業にきてくださるのを楽しみにしています。いただきました寄付金は、コウノリのために有効に使わせていただきます。



モウソウチクの駆除と生きものの隠れ家作り (2018年11月)

※ 『戸島湿地の野鳥』について、ホームページで発信しています。土曜日勤務の西垣さんが担当です。皆さんぜひご覧ください。 <http://www.hachigorou.com/wp-login.php>

＝編集後記＝

パンと麺類が大好きな私が、ご飯を食べるようになった。菓子パンを買わなくなったら、主食費が20%削減できた。ご飯をしっかり食べると食後の甘いものへの手も引っ込むから不思議だ。ご飯には『満足感』と『安らぎ』があるような気がする。

辰巳芳子氏は『続 あなたのために』の著書のなかで

『かの、ジョエル・ロプシオンは「日本の米」のうまみを知っていると同時におそれている。日本の米の美味と味わいの力は、それほどのものなのです。さらに、気付きにくいことですが、日本人の資質の根底にあるものは、稲作に対するあらゆる工夫・段取り・辛抱が培ったと認めざるを得ない、莫大な体験です。半導体の成功、自動車工業の成功。これらの根っこには、稲作の黄金色の波がある。皆で心をそろえて、「お米を食べること」を大切にしましょう』と提唱されている。 森

= お知らせ =

5月20日、『生きもの共生の日』に、
兵庫県造園建設業協会よりアカマツを寄贈していただき、
城崎小学校6年生が植樹してくださいました。

『コウノトリが営巣しますように—私たちの願い』と書いた
看板も設置してくださいました。



ハチゴロウの戸島湿地管理棟

早朝特別開館のお知らせ

6月28日(金曜日)～巢立つまで

朝6時30分より開館しています。

雨天時も開館しています。



皆さん、ぜひお越しください。

